

郷土めぐり

三ヶ寺合同阿弥陀念佛供養

当地方に伝承されている三ヶ寺（姫島の玄猷寺、荒尾の清水寺、寺本の法海寺）合同の阿弥陀念佛供養会を今年は寺本（三年に一度の当番）が勤め、去る九月二十七日常光院に於いて、立松住職のもと、荒尾の清水寺総代関係者、姫島の玄猷寺総代関係者及び寺本（区長・歴代区長・組長・総代他）が出席し、厳かに執り行われました。

供養当日に、清水は阿弥陀如来、姫島（富木島）は観世音菩薩、寺本は大勢至菩薩の掛軸をそれぞれ持ち寄り、三ヶ寺関係者が当番寺に揃い念佛供養を執行する慣わしは、戦後、昭和二十四年に荒尾の清水寺有志からの申し入れを三者が領諾して始まり、平成の今日まで続いております。かつては、知多西浦十四ヶ村（佐布里・寺本・藪・横須賀・大里・加木屋・木田・姫

島・荒尾・名和・長草・吉川・半月・大高）が阿弥陀講を結成し、毎月一ヶ村を巡り念佛供養を行うことが明治九年の解散まで続きました。

特に、毎年八月秋の彼岸には、十四ヶ村が合同で寺本浜供養場（神明社の裏）に四方八面を大木で組み、道場を造り大供養を一ヶ月（彼岸中とも言う）行いました。

時の尾張藩主二代目徳川光友公が寺本の供養場に参列され、その際、五具足（御深井焼花瓶一对・御深井焼香炉一個、蜀台一对）を下賜されました。これが寺本組の宝物です。

御深井焼花瓶及び香炉の宝物は八幡区長の管理下で保存されて、現在は盗難予防上知多市にお願いし、歴史民俗博物館に保管していただき、年一度（夏期）に行われる法海寺宝物虫ぼしのととき、公開見聞に供しています。



玄猷寺（姫島）



清水寺（荒尾）



法海寺（寺本）